

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
千葉リゾート＆スポーツ専門学校 学校		平成21年1月22日		高橋 一博		〒 260-0014 (住所) 千葉県千葉市中央区本千葉町8-16 (電話) 043-202-3541		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		鳥居 敏		〒 113-0033 (住所) 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-6151		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化教養専門課程		スポーツインストラクター科		令和 5(2023)年度	-	令和 5(2023)年度	
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、スポーツインストラクター等として、健康スポーツに従事しようとする者に必要な実践的かつ専門的な知識、技能を教授することによって、明日の健康産業を担う人材を養成することを目的とする。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	【主な教育内容】 インストラクターとして主にグループレッスンに必要な知識・技術を身に付け、人々を惹きつける魅力のあるレッスンを展開し、健康づくりのためのプログラム提供と運動指導ができる。 【取得可能な資格】 健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者、フィットネスクラブ・マネジメント技能検定3級等							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 62 単位	単位時間 71 単位	単位時間 11 単位	単位時間 4 単位	単位時間 0 単位	単位時間 29 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
80 人	74 人		0 人		0%	6.3 %		
就職等の状況	■卒業者数(C)		17 人					
	■就職希望者数(D)		17 人					
	■就職者数(E)		17 人					
	■地元就職者数(F)		11 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		64.7 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ナイキジャパン株式会社、株式会社カープスジャパン、ネイス株式会社								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無			
当該学科のホームページURL	https://www.sanko.ac.jp/chiba-sports/course/sports/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				62 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				5 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位			
	うち必修単位数				13 単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				1 単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				4 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				4 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				9 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程およびシラバスの改善素案が作成され、スポーツ分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、スポーツ分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
篠原 康秀	株式会社ファクトリージャングル 人事支援本部 人事部 採用課 副部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
坂本 愉喜雄	株式会社エールクリエイト 営業部 マネージャー	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
高岡 利和	学校法人三幸学園千葉校 統括責任者		-
渡邊 慎也	千葉リゾート&スポーツ専門学校 副校長		-
大塚 優輝	千葉リゾート&スポーツ専門学校 教務主任		-
橋本 大	千葉リゾート&スポーツ専門学校		-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年7月7日 17:00～18:00

第2回 令和5年12月15日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会にいただいた以下について対応を行っている。

①これから業界で求められるトレーナー像／インストラクター像について

人気があるインストラクターに関してはコミュニケーション能力が高い。人の気持ちを察する力やお客様と適切な距離感で接する能力も必要である。⇒対応:授業にアクティブラーニングを取り入れ、意見交換や成果発表を日常的にできるよう対応

②インストラクターとして、学んだ方がよいジャンルについて

業界の変化がかなり激しくなっている為、ジャンルを問わず業界業種、ビジネスについての根本的な知識を増やしたほうが良い。

⇒対応:授業に様々な業界・業種で働いている卒業生を呼び、講話を実施。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を施すにあたり、スポーツ業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。スポーツ業界の求める人材要件に沿った計画、および評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

【インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ】

＊授業内容について：1年次、2年次に40時間、連携企業先で現場実習を実施し、スポーツ業界に必要な業務内容を習得するとともに日々の学習成果のアウトプットを行う。

＊評価について：連携企業による項目別の評価と提出された実習手帳の内容を加味し、最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする。

【ピラティス実践】

＊授業内容について：2年次に30時間、連携企業先で現場実習を実施し、スポーツ業界に必要な業務内容を習得するとともに日々の学習成果のアウトプットを行う。

＊評価について：連携企業による項目別の評価と提出された実習手帳の内容を加味し、最終評価に反映させ、成績認定を行うものとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
インターンシップ実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物	株式会社グッドウェーブ 医療法人社団鎮誠会 姫島クリニック 医療法人社団鎮誠会 千葉きぼーるクリニック 一般社団法人OCEAN FAMILIA ゼビオ株式会社
インターンシップ実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物	株式会社グッドウェーブ 医療法人社団鎮誠会 姫島クリニック 医療法人社団鎮誠会 千葉きぼーるクリニック 一般社団法人OCEAN FAMILIA ゼビオ株式会社
ピラティス実践	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための実践的な指導力を身につける	株式会社CODE7

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日のスポーツ業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	PHI Pilates教員向け体験説明	連携企業等:	株式会社CODE7
期間:	令和5年8月28日	対象:	教職員(9名)
内容	機能改善と希望解剖学を中心にピラティスの基礎知識と基礎の動きを学ぶ		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	マジシャン式生徒の心を掴むための7つのトリック	連携企業等:	テレビ朝日映像株式会社
期間:	令和5年8月25日	対象:	教職員(15名)
内容	マジシャンがお客様の心を掴むテクニックを教員用に応用し、生徒指導に活かす。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	教職員向け業界理解、施術体験	連携企業等:	株式会社ピースフル
期間:	令和6年5月15日	対象:	教職員(3名)
内容	ボディメンテナンス企業としてお客様に提供しているサービスを体験し、学ぶ。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	現代社会を生きる学生と効果的な学習指導方法をめぐって	連携企業等:	佛教大学 副学長 原清治 様
期間:	令和6年9月24日	対象:	教職員(10名)
内容	現代社会を生きる学生の傾向を学び、効果的な学習方法を通常授業に活かす。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

① 学生支援について

【委員からの意見】

ボランティア等の課外活動へ教育の一環として参加させる取り組みは今後継続して行ってほしい。就職活動時には学生であっても現場での経験は重要視される為、より多くの機会提供を今後も実施してほしい

【対応】

1年次前期より現場を見学する機会を増やし、現場での動き方や必要な能力等を体験しながら学べる機会を増やした。

② 退学率低減について

【委員からの意見】

退学率低減については企業の離職防止と同様に、入学する前の段階で職業の魅力を伝え最低限の目標を立てた上で入学をしてもらうことが重要だと思う。

【対応】

入学希望者が安易な学科・コース選択をしないよう個人の適性や希望職種を踏まえ適切な学科・コース選択ができるよう職員の提案力を強化する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
葛巻 健太郎	株式会社リフレッシュ リラクゼーション事業部 取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
白井 秀憲	ネイス株式会社 シニアマネージャー	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
佐藤 昂大	飛鳥未来高等学校 千葉キャンパス 教頭	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	教育に関する知見を有する者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/disclosure/chiba-sports/>

公表時期: 令和6年8月5日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。

1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。

2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。

3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげる

こと。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要
(3)教職員	教員数、組織、専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.sanko.ac.jp/disclosure/chiba-sports/>

公表時期: 令和6年5月20日

授業科目等の概要

文化教養専門課程 スポーツインストラクター科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			トレーニング理論Ⅰ	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得させる。	1年前	30	2	○			○			○	
2	○			トレーニング理論Ⅱ	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得させる。	1年後	30	2	○			○			○	
3	○			トレーニング実践と指導Ⅰ	マシントレーニング、フリーウエイトトレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得し、指導テクニックを身につける。	1年前	30	1			○	○			○	
4	○			トレーニング実践と指導Ⅱ	マシントレーニング、フリーウエイトトレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得し、指導テクニックを身につける。	1年後	30	1			○	○			○	
5			○	機能解剖学Ⅰ	身体運動の基礎となる骨・筋・関節またそれに関連するものについて、その名称・位置・機能について学ぶ。	1年前	30	2	○			○			○	
6			○	機能解剖学Ⅱ	身体運動の基礎となる骨・筋・関節またそれに関連するものについて、その名称・位置・機能について学ぶ。	1年後	30	2	○			○			○	
7			○	身体運動の基礎科学Ⅰ	スポーツ科学の基礎的領域のうち、スポーツ生理学とスポーツバイオメカニクスについて学習する。	1年前	30	2	○			○			○	
8			○	身体運動の基礎科学Ⅱ	スポーツ科学の基礎的領域のうち、スポーツ生理学とスポーツバイオメカニクスについて学習する。	1年後	30	2	○			○			○	
9			○	スポーツ栄養学Ⅰ	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。	1年前	30	2	○			○			○	
10			○	スポーツ栄養学Ⅱ	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善ができるよう理解する。	1年後	30	2	○			○			○	
11			○	スポーツストレッチ実践	スポーツトレーナーにとって、ストレッチに関する正しい知識と技能は必要不可欠なものである スポーツトレーナーに必要なストレッチに関する正しい知識と技能を学習する	1年後	30	1			○	○			○	
12			○	ビジネスマナーⅠ	立ち居振る舞いや言葉づかい、お客様対応など、好印象を与えることのできる接客・接遇の理論を学習する また、社会人が知っておくべきマナーを理解し、必要な場面に応じた振る舞いを習得する	1年前	15	1	○			○			○	

13			○	ビジネス マナーⅡ	立ち居振る舞いや言葉づかい、お客様対応など、好印象を与えることのできる接客・接遇の理論を学習する また、社会人が知っておくべきマナーを理解し、必要な場面に応じた振る舞いを習得する	1 年 後	15	1	○				○			○	
14			○	運動障害の予 防と救急処置 Ⅰ	運動指導を行う上で、欠かせない内科的および外科的 障害に関する知識とその救急処置の方法を学習する	1 年 前	30	2	○				○			○	
15			○	運動障害の予 防と救急処置 Ⅱ	運動指導を行う上で、欠かせない内科的および外科的 障害に関する知識とその救急処置の方法を学習する	1 年 後	30	2	○				○			○	
16			○	運動指導の心 理学	運動指導を行う上で運動と心の関係を理解し、対象者 に適切なかわりを促進することができるようになる。	1 年 前	30	2	○				○			○	
17			○	体力測定と評 価	運動指導を行う上で、指導対象者の現状把握は欠かせ ない。この授業では、主に体力要素の測定と評価につ いて学習していく	1 年 後	30	2	○				○			○	
18			○	コミュニケー ショントレー ニング	コミュニケーションとはどういうものであり、 人間関係にどのような意味や役割を果たしているかを 概念的、体験的に理解する。	1 年 前	15	1	○				○			○	
19			○	未来デザイン プログラムⅠ	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現 する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶこと で、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体 性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する	1 年 前	15	1	○				○		○		
20			○	未来デザイン プログラムⅡ	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現 する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶこと で、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体 性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する	1 年 後	15	1	○				○		○		
21			○	トレンドエク ササイズ	運動指導の現状を理解する。	1 年 前	30	1				○	○			○	
22			○	スポーツマネ ジメント	フィットネス産業の商品・サービスなどの特徴及び重 要性などを正しく理解する。	1 年 後	30	2	○				○			○	
23			○	キャリア教育 Ⅰ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採 用試験に臨ませる。	1 年 前	15	1	○				○		○		
24			○	キャリア教育 Ⅱ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採 用試験に臨ませる。	1 年 後	15	1	○				○		○		
25			○	インターン シップ実習Ⅰ	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を 養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる 人物像やスキル、社会を学ぶ	1 年 後	48	1				○		○		○	○
26			○	サービスラー ニング演習Ⅰ	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと ・楽しんでもらうことを体感し「ささえるスポーツ」 の楽しさを知り、社会的活動を通して社会人として 必要な資質・能力を高めることができる。	1 年 後	15	1			○		○			○	
27			○	総合演習Ⅰ	スポーツ業界が専門学校に求める『専門性』『コミュニ ケーション』『ビジネス力』『イノベーション(創造 する)力』を個々が総合的に身につける。	1 年 前	30	2			○		○		○		

28			○	総合演習Ⅱ	スポーツ業界が専門学校に求める『専門性』『コミュニケーション』『ビジネス力』『イノベーション(創造する)力』を個々が総合的に身につける。	1 年後	30	2		○		○		○					
29			○	トレンドプログラム演習	フィットネス業界のトレンドを知る フィットネス業界を理解する	1 年後	15	1		○		○					○		
30			○	グループエクササイズ実践Ⅰ	グループエクササイズ指導の基礎知識を身につける。	1 年前	30	1			○	○					○		
31			○	グループエクササイズ実践Ⅱ	グループエクササイズ指導の基礎知識を身につける。	1 年後	30	1			○	○					○		
32			○	サッカー実践Ⅰ	サッカーの基礎技術を得る。 サッカー指導のポイントを確認する。	1 年前	45	1			○	○					○		
33			○	サッカー実践Ⅱ	サッカーの基礎技術を得る。 サッカー指導のポイントを確認する。	1 年後	45	1			○	○					○		
34	○			トレーニング理論Ⅲ	J A T I 認定トレーニング指導者専門科目に必要な知識を身につける。	2 年前	30	2	○			○					○		
35	○			トレーニング理論Ⅳ	J A T I 認定トレーニング指導者専門科目に必要な知識を身につける。	2 年後	30	2	○			○					○		
36	○			トレーニング実践と指導Ⅲ	パワー向上トレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を得る。	2 年前	30	1			○	○					○		
37	○			トレーニング実践と指導Ⅳ	パワー向上トレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を得る。	2 年後	30	1			○	○					○		
38			○	未来デザインプログラムⅢ	学校や社会でおこる「不都合な現実」の乗り越え方を学ぶ。	2 年前	15	1	○			○					○		
39			○	ピラティス理論	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための基礎知識の習得を目指す	2 年前	30	2	○			○					○		
40	○			ピラティス実践	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための基礎知識の習得を目指す	2 年後	30	1			○	○					○	○	
41			○	動作分析とエクササイズ処方Ⅰ	動作の評価からトレーニングの選択指導方法を身につける。	2 年前	30	2	○			○					○		
42			○	動作分析とエクササイズ処方Ⅱ	動作の評価からトレーニングの選択指導方法を身につける。	2 年後	30	2	○			○					○		
43			○	健康づくり運動の実践	国の施策を理解したうえで、運動プログラムの作成に必要な知識を身につける。	2 年前	30	2	○			○					○		

44			○	運動指導特論Ⅰ	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる筆記試験の内容を学び、専門的知識を高める	2年前	30	2	○			○			○	
45			○	運動指導特論Ⅱ	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる筆記試験の内容を学び、専門的知識を高める	2年後	30	2	○			○			○	
46			○	運動指導実践	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる実技試験の内容を学び、専門的知識と指導技術を高める	2年前	30	1			○	○			○	
47			○	コアコンディショニング指導実践	健康教育に関わる者として、コアコンディショニングの概念および手法を用いたコンディショニング指導方法を習得する。	2年前	30	1			○	○			○	○
48			○	キャリア教育Ⅲ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨める。	2年前	15	1	○			○		○		
49			○	キャリア教育Ⅳ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨める。	2年後	15	1	○			○		○		
50			○	インターンシップ実習Ⅱ	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ	2年前	96	3			○		○		○	○
51			○	サービスラーニング演習Ⅱ	ボランティア・メンバーとイベント主催者との「かけはし」となる存在を目指す	2年前	15	1		○		○		○		○
52			○	総合演習Ⅲ	運動指導施設では指導以外の業務でも活躍が求められる為、自ら運動施設を運営する実習を通して実際のスポーツ現場で行われている企画・準備・運営方法を習得する。また、ICTリテラシーを高め、ICTを活用した配信方法を習得する。	2年前	30	2		○		○		○		
53			○	総合演習Ⅳ	運動指導施設では指導以外の業務でも活躍が求められる為、自ら運動施設を運営する実習を通して実際のスポーツ現場で行われている企画・準備・運営方法を習得する。また、ICTリテラシーを高め、ICTを活用した配信方法を習得する。	2年後	30	2		○		○		○		
54			○	水中運動実践	水中エクササイズを理解する。 水中エクササイズの理論と指導法を理解する。	2年前	30	1			○	○			○	
55			○	グループエクササイズ実践Ⅲ	グループエクササイズ指導を理解し、実践をすることができる。	2年前	30	1			○	○			○	
56			○	グループエクササイズ実践Ⅳ	グループエクササイズ指導を理解し、実践をすることができる。	2年後	30	1			○	○			○	
57			○	グループエクササイズ理論Ⅰ	グループエクササイズ指導の基礎知識を理解する。	2年前	15	1	○			○			○	
58			○	グループエクササイズ理論Ⅱ	グループエクササイズ指導の基礎知識を理解する。	2年後	15	1	○			○			○	

59			○	グループエクササイズ指導実践Ⅰ	グループエクササイズ指導を楽しく行うための知識や技術の習得と合わせてプログラミングと指導実践を身につける。	2年前	30	1				○	○			○	
60			○	グループエクササイズ指導実践Ⅱ	グループエクササイズ指導を楽しく行うための知識や技術の習得と合わせてプログラミングと指導実践を身につける。	2年後	45	1				○	○			○	
61			○	チャイルドスポーツ指導実践Ⅰ	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける	2年前	30	1				○	○			○	
62			○	チャイルドスポーツ指導実践Ⅱ	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける	2年後	30	1				○	○			○	
63			○	キッズレクリエーション指導実践Ⅰ	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する正しいレクリエーション実施方法を学ぶ	2年前	30	1				○	○			○	
64			○	キッズレクリエーション指導実践Ⅱ	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する正しいレクリエーション実施方法を学ぶ	2年後	30	1				○	○			○	
65			○	発育発達論	児及び児童の発達における基礎理論を理解する運動神経の発達とゴールデンエイジの関係性を理解する	2年前	15	1	○				○			○	
66			○	キッズダンス実践Ⅰ	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する正しいダンス指導方法を学習する	2年前	30	1				○	○			○	
67			○	キッズダンス実践Ⅱ	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する正しいダンス指導方法を学習する	2年後	30	1				○	○			○	
68			○	イベントプランニングⅠ	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施の基本を理解する	2年前	30	2	○				○			○	
69			○	イベントプランニングⅡ	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施の基本を理解する	2年後	30	2	○				○			○	
70			○	リテールマーケティングⅠ	マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基本知識・技能を理解する	2年前	30	2	○				○			○	
71			○	リテールマーケティングⅡ	マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基本知識・技能を理解する	2年後	30	2	○				○			○	
72			○	スポーツプロモーションⅠ	スポーツの普及・促進・発展させていくことを意味するスポーツプロモーションについて、生涯スポーツという観点から日本の各種スポーツ政策・施策を実例を通して学習する	2年前	30	2	○				○			○	
73			○	スポーツプロモーションⅡ	スポーツの普及・促進・発展させていくことを意味するスポーツプロモーションについて、生涯スポーツという観点から日本の各種スポーツ政策・施策を実例を通して学習する	2年後	30	2	○				○			○	
74			○	モチベーション・マネジメント	スポーツビジネス業界で求められるモチベーションマネジメントを習得する。	2年前	30	2	○				○			○	

75			○	スクールマネジメント	日本スポーツの在り方を学び、地域スポーツクラブ運営に欠かせないマネジメントについて理解を深める。	2 年 後	30	2	○				○			○	
76			○	フィジカルトレーニング指導実践Ⅰ	フィジカルトレーニングのプログラム内容を理解し、トレーニングメニューの作成方法を身に付ける。	2 年 前	30	1				○	○			○	
77			○	フィジカルトレーニング指導実践Ⅱ	フィジカルトレーニングのプログラム内容を理解し、トレーニングメニューの作成方法を身に付ける。	2 年 後	30	1				○	○			○	
78			○	スポーツテーピング実践	スポーツ現場で見られる各部位の外傷・傷害に対するテーピングを理解する。	2 年 前	30	1				○	○			○	
79			○	サッカー指導実践Ⅰ	身につけたコーチングスキルやテクニックを実践する。 個々にあった指導法を学ぶ。	2 年 前	30	1				○		○		○	
80			○	サッカー指導実践Ⅱ	身につけたコーチングスキルやテクニックを実践する。 個々にあった指導法を学ぶ。	2 年 後	30	1				○		○		○	
合計						80	科目	115 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示すとおりとする。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 原則として教育課程に定められている順序で履修する。「インターンシップ実習Ⅰ」「インターンシップ実習Ⅱ」を必修科目とおいている。 選択科目については、シラバス等に基づき、履修科目を決定する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。